

## 第14回神奈川県景気動向指数検討委員会開催結果について

1. 日 時 平成31年2月20日（水）14：00～16：00

2. 場 所 かながわ県民センター12階 第1会議室

3. 出席者 神奈川県景気動向指数検討委員会名簿のとおり

4. 議 事 (1) 神奈川県景気動向指数の改定について  
(2) 神奈川県景気基準日付の確定について

### 5. 主な意見

#### (1) 神奈川県景気動向指数の改定について

- 「県有効求人数（除く学卒）」は、景気循環ではなく構造的変化によって推移しており、生産年齢人口の落ち込み等が構造的要因となっている。
- 働き方改革などで、雇用の構造的要因が大きく変化してきている。雇用関連指標には引き続き検討が必要となってくるだろう。
- 「県耐久消費財出荷指数」の耐久消費財には乗用車が含まれている。先行指数の「県乗用車新車新規登録・届出台数」との組み合わせとしてよく、先行と一致の対応関係として適切であると考えられる。
- 遡及改定期間の短縮は、指数選択の幅を広げるメリットと、長期のデータを確認できなくなるデメリットがある。
- 国と比べて採用できる系列に限界があり、また、長期の系列をとると過去の動きに引っ張られてしまい、直近の動きが悪くなってしまうことも考えると、神奈川県での遡及期間の短縮は妥当と考えられる。

#### (2) 神奈川県景気基準日付の確定について

- 山の時期は、2011年に東日本大震災が発生し、その後、復興需要によって日本全体の景気が回復している状況であった。神奈川県は地震による被害が小さく、復興需要も限定的になったことから、国よりも山が先行したのではないか。
- 神奈川県は、自動車産業及び機械産業等が盛んな地域であり、景気を引っ張っている。当時は東日本大震災の後、円高が急速に進んだ時期であり、県内の製造業に影響を与えたと考えられる。
- 山谷を選定する際には恣意的にならないよう、なるべく科学的な方法をとる必要があるだろう。現時点で、選定方法は適切であると考えている。

### 6. 検討結果

#### (1) 神奈川県景気動向指数採用系列の改定について

神奈川県景気動向指数採用系列の改定について、事務局案のとおり改定することは妥当である。

#### (2) 神奈川県景気基準日付の確定について

国の第15循環に対応する神奈川県景気基準日付の確定について、「平成23（2011）年11月」を景気の高、「平成24（2012）年12月」を景気の谷とし、また、以降の期間について、景気の高谷が確認されなかったとする事務局案は妥当である。

# 神奈川県景気動向指数検討委員会名簿

平成31年2月20日現在

(職名五十音順/敬称略)

委員氏名	職名
市野澤 国冠 (欠席)	神奈川県商工会議所連合会事務局長
佐藤 和男	神奈川県商工会連合会事務局長
忍田 千鶴子	経済産業省関東経済産業局総務企画部企画調査課経済調査室長
水野 敏宏	財務省関東財務局横浜財務事務所財務課長
◎ 大平 純彦	静岡県立大学経営情報学部准教授
澤井 景子	内閣府経済社会総合研究所景気統計部長
丸山 豊 (欠席)	日本銀行横浜支店総務課長
○ 小泉 司	(株)浜銀総合研究所調査部上席主任研究員

◎ : 委員長、○ : 委員長代理

## (事務局)

深谷 尚志	統計センター所長
松岡 純	統計センター次長
原 広江	統計センター企画分析課長
橋本 亜依	統計センター企画分析課主事
中村 祥絵	統計センター企画分析課主事
早川 輝	統計センター企画分析課主事
西條 千聡	統計センター企画分析課臨時主事